

さいたま 来ぶらり通信

Contents

鉄道開業 150 周年！東北・上越新幹線 40 周年！鉄道博物館 …… 1, 2 本棚ぶらり テーマ「鉄道」 …… 3
 国立国会図書館デジタルコレクションをご存じですか／特別整理休館・臨時休館のお知らせ／年末年始休館のお知らせ …… 4

わがまち

はっけん

Sai 発 

鉄道開業 150 周年！
 東北・上越新幹線 40 周年！

鉄道博物館

今年2022年は日本の鉄道が開業して150周年、大宮を通る東北新幹線・上越新幹線が開業して40周年という、鉄道の大きな記念が重なった年です。そこで今回は、大宮区にある鉄道をテーマとした博物館としては日本有数の、「鉄道博物館」(通称てっぱく)をご紹介します。

鉄道博物館と「鉄道のまち大宮」

鉄道博物館の歴史は古く、1911(明治44)年に鉄道院が鉄道資料収集を開始したところまで遡ります。1921(大正10)年に「鉄道博物館」が東京駅北側高架下に開館、その後昭和の時代に神田へ移転、「交通博物館」への改称を経て2006(平成18)年まで存続します。その交通博物館を受け継いで2007(平成19)年の10月14日鉄道の日、さいたま市大宮区に新たにオープンしたのが現在の鉄道博物館です。

大宮は1885(明治18)年の大宮駅開設後、乗降客数の増加とともに商人の進出などで駅前が整備され、商業都市の様相を見せるようになりました。また、日本鉄道会社大宮工場の設立や、鉄道輸送の便から製糸工場等が多く進出したことにより人口が増加、経済的にも著しい発展をとげました。このように鉄道を中心として街が発展していったことから、大宮は「鉄道のまち」と言われます。旧大宮市では1980年代から鉄道博物館の誘致構想があり、合併後のさいたま市へも引き継がれました。長い年月を経て、「鉄道のまち」に日本最大級の鉄道博物館が誕生したのです。

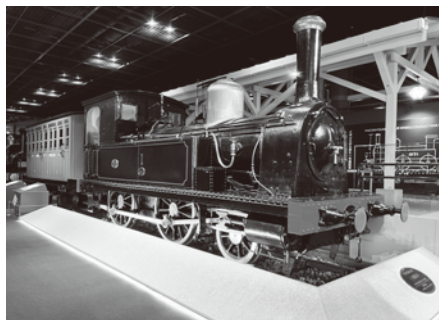


鉄道博物館と横を走る電車

展示の目玉！1号機関車

鉄道博物館の目玉とも言える展示が1号機関車(150形式)です。国の重要文化財に指定されています。1871(明治4)年、日本の鉄道開業に合わせてイギリスから蒸気機関車が10両輸入されました。1号機関車はこのうちの1両で、1872(明治5)年に開業した新橋～横浜間を53分で走っていました。当時実際に使われていた車両を、さいたま市で見ることができるのです。

ところで、鉄道の運行のためには時間が全国的に統一されている必要があります。江戸時代の不定時法は季節や地域によって時刻が異なり、時間の単位も現在とは違うものでした。そのため、鉄道の導入とともに西欧の定時法が日本でも採用されました。日本人の時間感覚が大きく変わる事となったのです。鉄道の開業はこのように、生活の利便性のみならず人々の精神的側面にも影響を与えたと言えます。



150年前に活躍した1号機関車



東北新幹線・上越新幹線 40 周年

鉄道博物館には東北・上越新幹線で使用した200系新幹線も展示されています。6月の東北新幹線開業40周年記念にあたっては、「200系新幹線の連結器を見てみよう」など様々なイベントが開催され人気を博したそうです。また、「鉄道車両年表」の展示スペース内では「新幹線YEAR 2022」特別展示を実施中。11月28日までは上越新幹線の歴史を物語る貴重な資料やポスター、模型などが展示されます。身近な乗り物になった新幹線。これからも歴史が続いていきます。

さて、展示されている車両にはそれぞれ特徴や見どころがあります。例えば200系新幹線は豪雪地を走るため、線路上の雪をはねのける「スノウプラウ」が取り付けられています。このような解説板が必ず設置されているので、解説を読んだ上で車両を見るとより理解が深まり鉄道の面白さを感じることができでしょう。



他にはない立地の博物館

鉄道博物館は車両・歴史・仕事・科学・未来の5つのステーションに分かれ、紙面では紹介しきれませんが色々な切り口から鉄道について知り、体験的に学べる施設です。また、3階の新幹線ラウンジや4階のビューレストランから実際に走行する新幹線を見ることができたり、在来線の線路も脇を通っていたりと、過去と現在の車両を一度に見られる大変珍しい場所になっています。展示の見応えはもちろん、鉄道の世界に浸りながら一日ゆったりと過ごせる、そんな魅力のある博物館です。

[取材協力]



鉄道博物館

〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目47番
TEL 048-651-0088 (休館日を除く 10:00 ~ 17:00)
JR 大宮駅よりニューシャトル「鉄道博物館(大成)駅」
下車、徒歩1分

*入場料や開館時間、休館日情報等は
ホームページを確認してください。

<https://www.railway-museum.jp/>



ここにも注目!



ライブラリー

鉄道博物館にライブラリーがあるのをご存じですか。鉄道を中心に、交通関係各分野の運輸・歴史・技術・統計・年鑑・伝記などの図書をはじめ、鉄道関係雑誌のバックナンバーなど数多く所蔵しているほか、特別コレクションとして明治期から現在までの時刻表を収集しています。専門的研究のための資料室で、学芸員をはじめ研究者、新聞記者や映画制作の関係者などの利用が多いということですが一般の方も利用できます。完全予約制です。

子どものためのキッズライブラリーもあります。絵本や図鑑など、鉄道に関するたくさんの子どもの向けの本を、自由に閲覧することができます。実際に使われていた新幹線や特急の座席が設置されていて、旅行気分で読書を楽しむこと間違いなし。他に靴を脱いで上がれるスペースもあります。電車の本はさいたま市図書館でも子どもたちに大人気。鉄道の本ばかりの空間で過ごすのが嬉しい子ども多いと思います。お子様連れの方はぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

ステンドグラス

本館2階の一面に「過ぎゆくもの」と題された縦3m・横10mのステンドグラスが設置されています。これはさいたま市(旧浦和市)生まれの銅版画家、山本容子氏の作品です。10人の作家が書き下ろした鉄道にまつわるエッセイをもとに制作されたもので、10点の独立した作品が繋がり全体で1枚の絵となっています。少し足を止めて、光に包まれた作品を鑑賞するのも良いかもしれません。『過ぎゆくもの』はエッセイ集として出版(マガジンハウス 2007年)されており、さいたま市図書館でも所蔵しています。



谷川俊太郎の詩「過ぎゆくもの-SL挽歌」が基調となっている

P.1 ~ 2 参考文献

- 『鉄道博物館』ジェイアール東日本企画・交通新聞社/編集・制作 鉄道博物館 2007年
- 『首都圏鉄道ミュージアム大図鑑』昭文社 2019年
- 『さいたま市史 鉄道編』さいたま市 2017年
- 『埼玉鉄道物語』老川慶喜/著 日本経済評論社 2011年
- 『日本鉄道史 幕末・明治篇』老川慶喜/著 中央公論新社 2014年